

25 | 2013年(平成25年)12月26日 木曜日

3次元CADで「モノづくり」

高校生、ゴルフクラブ設計



桑原克典選手(左)からクラブの構造などを聞きながら、3次元CADで設計する生徒ら。大垣市今宿ソフトピアジャパン・ドリームコア

大垣市で研修 プロ使用のヘッド改良

高校生に3次元CAD(コンピューター利用設計システム)や3次元プリンターを活用したものづくりを体験してもらう研修「IT×モノづくりキャンプ」が25日、大垣市今宿のソフトピアジャパン・ドリームコアで始まった。26日まで。(高橋友基)

県が主催し、デジタル技術を触れる機会を提供し、将来のものづくりを担う人材を育成するため実施。人材教育事業などを手掛ける原市、富田茂社長)、情報科学芸術大学院大学(IAMAS、大垣市)の協力で開いた。研修には大垣工業高校(同市)と岐阜工業高校(羽島郡笠松町)の生徒20人が参加。初日は、同社の社員が講師を務め、3次元CADの使い方を学んだ。続いて、ゴルフの岐阜オープンクラシックに出場しているプロゴルファーの桑原克典選手が、実際に使用しているクラブのヘッドをCADで設計。生徒らは、会場に駆けつけた桑原選手から、クラブの構造や使いやすさを高めるための要望などを聞き、よりよいクラブを作ろうと熱心にパソコンに向き合った。

大垣工業高校機械科1年の島野健介君は「自分が作ったものが徐々に形になっていき、楽しい」と話した。26日は、設計したCADデータをもとに、3次元プリンターでクラブヘッドを試作するほか、IAMASの小林茂准教授による講義などが行われる。